公表　事業所における自己評価結果

事業所名	キッズ　おりーぶの木　茅ヶ崎

公表日 令和7年3月14日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		事業所全体で約８０㎡の広さであり、児童の活動スペース、職員の控えエリア、調理/トイレタリーエリアほか定員１０名の児童の受け入れには程よい広さである。	特別な対応が必要な場合の個室は用意されておらない。（現在必要が生じた場合は、パーティションほかでスペースを作り対応している。）個室を用意すべきか検討中である。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		常時４，５名の職員を配置している。通所児童の数と比較して適切であると考えている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		児童の活動スペース、職員の控えその他と単純な分かりやすい構成になっている。一部を除き全体に床面から８０ｃｍを超える設備機器は設置がなく、全体がよく見通せる。全体に段差はない。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		普段清掃もよく心がけ、事業所空間は清潔で心地よく過ごせる環境になっているといえる。	書籍や遊具などを格納するスペースがやや不足気味であり、ラック等も活用しよりコンパクトな格納を行う余地はあるといえる。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個室は設けておらないが、パーティション等を活用し、臨時に個別スペースを設け対応している。これまでのところ特に問題は起きてはおらない。	個室を用意すべきか検討中である。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		職員が参加をする検討会議等を適宜開き検討を行っている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者向け評価表のほか、日常保護者との情報交換は十分心がけており、意向・意見を聞き、必要な業務改善を行うよう心がけている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		会議等のフォーマルな場、また日常の会話等で職員の意見などを聞いている。必要に応じて、内容を業務改善につなげている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	第三者による外部評価は現在のところ実施しておらない。	第三者による外部評価の導入を検討中である。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		実施が義務付けられている研修のほか、外部/法人内で必要と思われる研修の機会を確保している。	
適切な支	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		作成、公表されている。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		面談その他に基づいた情報をもとにアセスメントを行い、課題やニーズをよく分析し、放課後等サービス計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童発達支援管理責任者だけではなく個々の児童に関わる職員の意見をもとに、放課後等デイサービス計画を作成しており、個々の児童の最善の利益が最優先されるよう取り図っている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか 。	○		職員間に共有され、計画に沿い支援活動を行っている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントは現在行っていないが、個々の児童についての日常観察に基づく職員間の情報交換などの集約により適応状況の確認を行っている。	標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントにつき検討中である。
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容の設定を行っている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		支援に携わる職員の意見を踏まえ活動プログラムの立案を行っている。	

支援の提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		恒常的に行うプログラムと適宜新規のプログラムを加え対応している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		個別活動とグループ（集団）活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援を行っている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		支援開始前に打ち合わせを行い、その日の必要な事項につき確認を行い、チームワークにより支援を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い､気付いた点等を共有しているか。	○		支援終了後に打ち合わせを持ち、その日の支援内容の振り返りほか情報交換を行い、共有化を図っている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		それぞれの支援を行った児童について日々の詳細な活動記録を作成し、支援の検証・改善につなげている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		定期的にモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	○		「４つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っている。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		児童同士の活動（職員は必要に応じて支援）の取り入れ、工作等では素材等の選択（何をどのように）を児童に任すこと、また時に応じて事業所内と外の活動の選択を児童に任す活動等も取り入れている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		関係機関との会議等があった場合は、個々の児童の状況をよく知ったものが参画している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		地域の関係機関と連携して支援を行う体制を整えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		適宜適切に行っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		必要な限りの情報共有と連携に努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか 。	○		必要に応じて行っている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		地域での活動は重要なテーマとして折にふれ行っている。日常的に近隣の公園へ行き、遊びに来ている地域のこども達との交流を心がけている。ほか地域公民館等での活動も積極的行い、都度機会をとらえ地域のこどもとの交流を促している。	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		○		自立支援協議会への参加を検討している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の詳細な活動記録を確認して頂くほか、送り時等に保護者と情報交換を行い通所児童の状況/課題につき共通理解を持つようにしている。（必要な場合は面談を持つようにしている。）	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	現在、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント･トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会は提供しておらないが、家族の対応力の向上のための情報提供は面談時等に適宜行っている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		支援プログラムのHPでの公開、契約時等において運営規定、利用者負担等についての説明を行っている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		面談や日頃の情報交換を通して、こどもや家族の意向を確認する機会を持っている。	

保護者への説明等	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか 。	○		放課後等デイサービス計画を示しながら内容の説明を行い、保護者からその同意を得ている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		家族等の子育ての悩み等については、適宜相談に応じて、助言や支援を行っている。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。		○	現在、保護者会等は開催しておらないが、保護者も参加をする活動（地引網、地域こども食堂への参加等）等を通して保護者同士の交流を図っている。当該保護者も参加をする活動には、通所児童の兄弟姉妹も参加してもらうようにしている。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情についての対応の体制を整備し、迅速、適切に対応するようにしている。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		日々の詳細な活動記録の提供や日頃の頻繁な情報交換を通して活動内容や行事予定、連絡体制等をこどもや保護者に伝えている。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		十分留意している。従業員との間では、従業員でなくなった後においてもこどもや家族の個人情報は秘匿する契約を取り交わしている。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		個々の通所児童の障害の特性を十分考慮して日々支援に当たっており、意思の疎通や情報伝達についても十分配慮をしている。また、保護者との日頃から情報交換に努め意思の疎通等図っている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		事業所の行事に地域住民を招待することは現在行っておらないが、通所児童と職員が積極的に地域行事に参加している。（地域社協祭り、こども食堂、支援学校学園祭等への参加）	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		マニュアルを策定のうえ、機会を捉え職員や通所児童への周知並びに訓練を実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		業務継続計画（BCP）を策定し、定期的に必要な訓練を行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時や日々の情報交換を通して服薬や予防接種、てんかん他の持病等また食物アレルギー等につき把握を行っている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーについては、保護者から情報提供（医師の所見につき文書の提供を求める場合あり。）に基づきおやつ等の食事提供時対応を行っている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画を作成、適宜必要な研修や訓練を行い、必要な措置を講じた中で支援を行うよう図っている。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか 。	○		安全計画に基づく取り組み内容について、文書や口頭での説明を通して、家族等へ周知を行っている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ヒヤリハットについての情報は鋭意職員間で共有、検討して、再発防止に当たっている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		虐待防止については、職員研修を持ち、また日頃のピアリビューや検討会を通して適切な対応を行っている。	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		身体拘束については、組織的に検討の上、契約時等によく説明しこどもや保護者に了解を得ている。また必要に応じて放課後等デイサービス計画に記載を行っている。	